

2 研究の実際

(1) 新学習指導要領における考え方

ア 三つの資質・能力とその関わらせ方

新学習指導要領では、小学校音楽科の目標を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」と示した上で、図1のように、資質・能力ごとの目標を示しました。

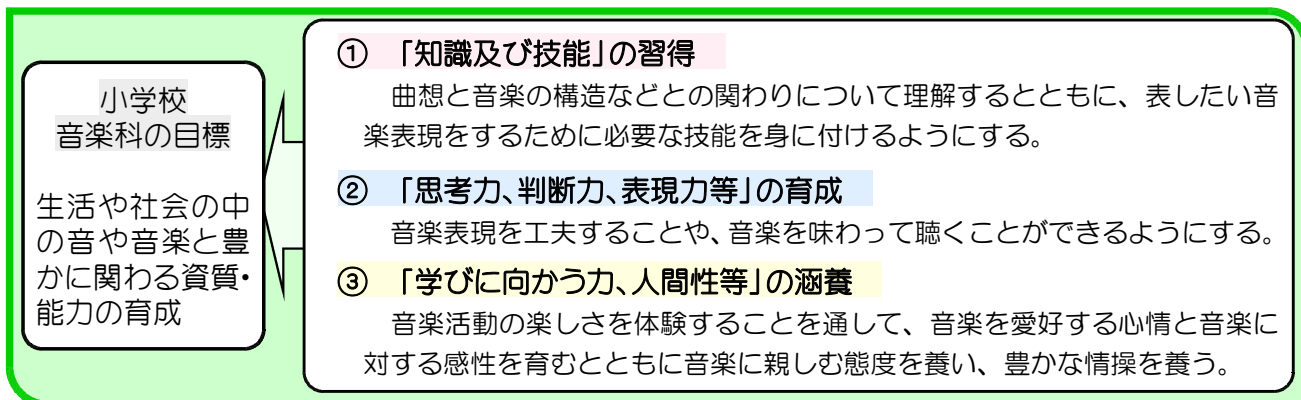


図1 小学校音楽科の目標と三つの資質・能力の整理

三つの資質・能力は、一体となって働くことが重要であるため、音楽科の目標を達成するためには、三つの資質・能力を相互に関わらせて育成する必要があります。また、「知識及び技能」を習得してから「思考力、判断力、表現力等」を育成するといった一定の順序性を持って指導することがないようにすることも大切です。

ポイント



これまでの教育課程が、主に「何を教えるか」という観点で編成されていたのに対し、今回の改訂では、それらを「何ができるようになるか」にまで発展させて編成されているのが着目すべき点です。

「学習指導要領改訂の方向性」⁽¹⁾等については、[こちらをクリック⇒](#) [リンク](#)

つまり、新学習指導要領では、今持っている「知識及び技能」を用いて「何ができるか」や、それらを「どう使うか」にまで考えを発展させ、様々な課題解決を図ったり、学んだことを生活に役立てたりするといった **生きて働く「知識及び技能」**を習得させることが求められているのです。

そこでは、必然的に、**未知の状況にも対応できるようになるための「思考力、判断力、表現力等」**が働くようになります。また、**学びを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」**も必要となります。ですから、この三つの資質・能力は、一体となって働くことが重要なのです。

イ 生きて働く「知識」についての考え方

生きて働く「知識」について、答申では、次のように述べられています⁽²⁾。

子供たちが学ぶ過程の中で、新しい知識が、既に持っている知識や経験と結び付けられることにより、各教科等における学習内容の本質的な理解に関わる主要な概念として習得され、そうした概念がさらに、社会生活において活用されるものとなることが重要である。

生きて働く「知識」を習得するためには、既に持っている知識や経験と結び付けながら更新を重ね、それらが断片的な理解にならないようにする必要があります。また、「知識をどのように使うか」にまで考えを発展させ、実際にそれらを活用できるようにするとともに、使う喜びや有用性を実感させ、社会生活で活用していこうとする心情を培うことが大切です。

ポイント



「知識」のみを単独で育成するのではなく、三つの資質・能力を相互に関わらせながら育成することで生きて働く「知識」が身に付くようになります。それらは、社会生活において生涯にわたって活用できるものであり、人生を豊かにする価値のあるものです。

ウ 小学校音楽科における「知識」

平成28年12月の答申では、小学校音楽科で育成を目指す「知識」が、図2のように整理されました。

- 曲想と音楽の構造との関わりについての理解
- 音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解

答申を基にすると、新学習指導要領で示される「知識」の資質・能力は、次のように整理できます。

★拡大図は、[こちらをクリック⇒](#) [リンク](#)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学校音楽	- 曲想と音楽の構造との関わりについての理解、音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解 - など - 自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現したりするための技能 - など	- 音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力 - など - 音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら知識を得たり活用したりして、楽曲や演奏のよさなどを考え味わい、自分にとっての音楽のよさなどを見いだす力 - など	- リズム感、聴覚感覚など音楽の特性を感じ取る感性 - 音楽の学習に主体的に関わり続ける意欲 - 音楽を愛好する心構え - 生活の中での様々な音楽や音楽への関心や意図を見いだす力 - など - 我が国や海外の音楽に親しみ、それらを大切にすること - 美しいものや優れたものに接して感動する、情緒豊かな心としての 情緒 - など

図2 育成を目指す資質・能力の整理⁽³⁾

曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解

表現及び鑑賞における「知識」の習得に関する目標（前頁図1）に示される内容です。

音楽科の「知識」には、曲名や音楽記号などの知識だけでなく、聴き取り、感じ取ることから得られる知識があります。例えば、「鯉のぼり」（弘田龍太郎：作曲）で、「わくわくした感じがするのは、タッカタッカのリズムが反復されているから」と捉えることなどがそうです。

ここで言う「知識」とは、このように「わくわくする」と感じ取った曲想と、「タッカタッカのリズムの反復」という聴き取った音楽の構造との関わりを捉え、体を動かすなどの活動などを通して、自己のイメージや感情と関わらせながら、自分なりに理解ができることを目指すものです。

ポイント



一人一人の感じ方は様々なので、「わくわくする」、「ドキドキする」などのように、感じ取ったことには個人差があり、正解や間違いがあるというわけではありません。しかし、聴き取ったことは、誰もが一樣に捉えることができるものです。例えば、同じ音楽を聴いて、「とても速い」や「ゆっくりしている」のように、個々で違った捉え方をしたり、同じリズムを聴いて「ターター」や「タッカタッカ」のように、違って捉えたりすることはありません。つまり、「自分なりの理解」ではあっても、それらは音楽的な根拠に基づく理解であり、その根拠となる「音楽を形づくっている要素」についての理解が支えとなって習得される「知識」なのです。

音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること

新学習指導要領では、現行の学習指導要領の〔共通事項〕イに「音楽を形づくっている要素についての理解」が加えられ、それが「知識」として位置付けられました。

現行の学習指導要領における〔共通事項〕⁽⁴⁾は、[こちらをクリック⇒](#) [リンク](#)

音符、休符、記号や用語には、例えば、「♪」の名称は『八分音符』である」のように、教科書を見れば分かる知識があります。それらの知識を音楽活動の中で活用できるようにするためには、音楽における働きと関わらせて理解できるようにする必要があります。

例えば、「鯉のぼり」（弘田龍太郎：作曲）で、「タッカタッカのリズムには、付点八分音符が含まれていて、そのリズムの反復によって、わくわくした気持ちになった」というように、付点八分音符の音楽における働きと関わらせて理解できていれば、それらは「音楽づくり」の音楽活動で、「わくわくした感じを出す」ための工夫として活用され、記譜に生かされるようになります。そして、その中で付点八分音符を用いて音楽づくりをする有用性を実感するとともに「知識」に価値を見いだし、音楽活動の中で更に活用していこうとする意欲が高まるようになるのです。

ポイント



「知識」に価値を見いだすためには、音楽活動の中で活用できるようにすることが大切です。そのためには、「知識」を一般概念で留めるのではなく、実感を伴った自分なりの理解にすることが大切です。

エ 「知識」と「思考力、判断力、表現力等」との関わり

図3は、音楽科における学習過程のイメージ図です。○に示されるのは、表現及び鑑賞の学習に共通して位置付けられた「聴き取り、感じ取り」です。○は、表現及び鑑賞における「知識」及び「知識・技能」を示しています。

この学習過程のイメージ図で示されるように、「知識」は、「聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを思考、判断しながら、それらを基盤として、音楽表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりする」*過程で身に付いていきます。

「知識」とは、教師から与えられたものだけではなく、児童自らが思考、判断し、表現しながら身に付けていくことが大切になります。

★拡大図は、こちらをクリック ⇒

リンク

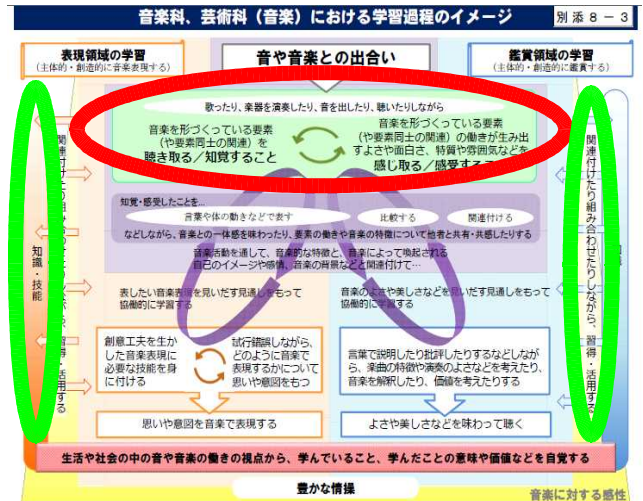


図3 学習過程のイメージ図 (5)

ポイント



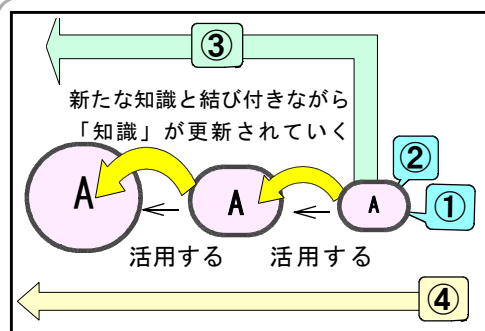
*は、新学習指導要領における（共通事項）ア「音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること」にも示される内容です。（共通事項）アは、新学習指導要領では、「思考力、判断力、表現力等」に関わる資質・能力として位置付けられています。

オ 「知識」と「学びに向かう力、人間性等」との関わり

生きて働く「知識」とは、「知識」を実際に活用しながら価値を見だし、社会生活の中で生涯にわたって活用していこうとする心情が培われる中で育成されるものです。したがって、「知識」を活用して表現したり、鑑賞したりする喜びを味わうことができるようにすることが大切です。その中で、よりよく「知識」を身に付けようとする心情も高まります。

(2) 本研究における生きて働く「知識」についての考え方

以上のことから本研究では、生きて働く「知識」を図4のように、「聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて自分なりに理解したことを、新たな音楽活動で活用しながら更新し、表現や鑑賞に生かす喜びを感じることができるもの」と捉えます。



A 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解

音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせ理解

① 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを理解している

② 自分なりに実感を伴って理解している

③ 新たな音楽活動で活用しながら更新されている

④ 表現したり、鑑賞したりする喜びにつながっている

図4 生きて働く「知識」の捉え方（生きて働く「知識」の育成過程と条件）

生きて働く「知識」は、授業中の児童の様子から見取るだけでなく、可視化された記述（ワークシート等）から見取ることによって、児童一人一人の実態を把握し、適切に評価をしながら指導や支援を行うことができるようになりますと考えます。

そこで、児童の実態を踏まえた上で、児童の考えを可視化するワークシートを作成することにしました。

(3) 実態調査

検証授業の対象となる第6学年の児童に実施（H29.7）した意識調査の結果は、次のとおりでした。

（学…学級の実態、全…『特定の課題に関する調査（音楽）調査結果』及び『小学校学習指導要領実施状況調査教科別分析と改善点（音楽）』調査結果）

n=24

①歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりするときに、自分はこうしたいという願いや考えを持つようになっていますか。

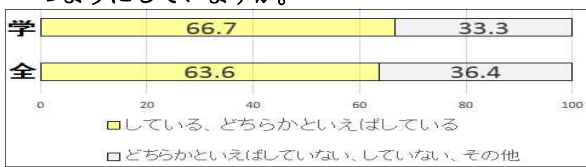


図5 願いや考えを持つこと

②授業で音楽を聴くとき、その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などで表そうとしていますか。

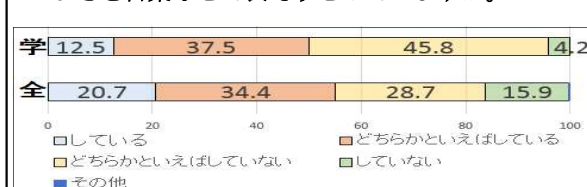


図6 言葉で表現すること

③音楽をつくる活動のとき、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現することは好きですか。

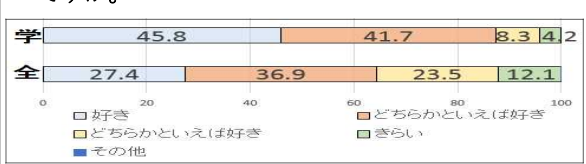


図7 音や音楽で表現すること

④授業で音楽を聴くとき、その音楽全体の仕組みを考えることがありますか。



図8 音楽の仕組みを聴き取ること

⑤音楽をつくる活動のとき、音楽の仕組みを生かす工夫をしていますか。



図9 音楽の仕組みを生かすこと

⑥ふだんの生活の中で、音楽（簡単なリズムや旋律など）をつくる時、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。

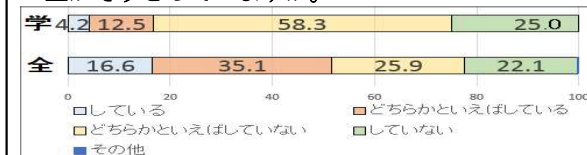


図10 学んだことを生かすこと

○自分の願いや考えを持って音楽活動に取り組む児童の割合が、全国平均より高い（図5）。

○音楽をつくる活動のとき、自分のイメージや思いなどを音や音楽で表現することを好む児童の割合が、全国平均より高い（図7）。

●音楽を聴くとき、音楽の特徴などを言葉で表そうとする意識が、全国平均より低い（図6）。

●音楽を聴くときに音楽の仕組みを考えたり、音楽をつくる活動のとき、音楽の仕組みを生かそうとしたりする意識が、全国平均より低い（図8、図9）。

●ふだんの生活の中で、音楽の授業で学んだことを生かそうとする意識が、全国平均より低い（図10）。

（●については、『小学校学習指導要領実施状況調査教科別分析と改善点（音楽）』で指摘される全国的な課題でもある。）

(4) 本研究における指導の手立て

音楽の仕組みは、特定の音楽に関わるものではなく、世界の様々な国の音楽に共通するものです。したがって児童が音楽の仕組みを理解し、音楽活動で生かすことができるようになることは、児童が音楽活動をする上で身に付けるべき大切な力であると考えます。

そこで本研究では、児童が音楽の仕組みを、生きて働く「知識」として習得することができるように、前述までの学習過程で児童の考えを可視化する指導の工夫に取り組みます。その際は、児童の実態を踏まえ、次頁図11のような手立てを取ります。

児童の実態

音楽を聴く活動（鑑賞）において、言葉で表そうとする意識が低い。



えっと、あの…

表現、鑑賞のいずれの音楽活動においても「音楽の仕組み」を生かそうとする意識が低い。



音楽の仕組み？

ふだんの生活に、音楽の授業で学んだことを生かそうとする意識が低い。



どうするのかな？

本研究において児童の考えを可視化するための手立て

- ①「感じ取ったこと」を言葉で表現しやすくするために、考える視点を示す。
- ②自分のイメージや感情、経験と結び付けやすくするために、結び付ける視点を示す。
- ③参考にしたたり、選択したりして言葉での表現をしやすくするために「表現の例」、「使いたい言葉の例」を示す。
- ④鑑賞と表現の両方の音楽活動で「音楽の仕組み」を生かすことができるように題材構成をする。
- ⑤音楽活動の中で意識できるように「音楽を形づくっている要素、音符休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働き」を一覧にして示す。
- ⑥新しい音楽活動で「知識」を生かし、更新した過程を見取ることができるように、更新した「知識」を記入する欄を設ける。
- ⑦音楽の授業で学習したことを振り返り、自己の学びの成長を自覚できるようにするために、学習の振り返りを記入する欄を設ける。

生きて働く「知識」の習得

図11 児童の考えを可視化するための手立て

これらを基に、次のように「つながり発見シート」「つながり発見シートの手引き」「使いたい言葉の例」を作成しました。「つながり発見シートの手引き」「使いたい言葉の例」は、児童が「つながり発見シート」を記入する際に、必要に応じて参考にできるものです。

※①～⑦は、図11に示す手立てに対応した工夫です。

ここをクリックすれば、「つながり発見シート」が開きます [リンク](#)

「児童の記入例」が開きます [リンク](#)

「感じ取ったこと」と「聴き取ったこと」を線で結んで可視化し、「曲想と音楽の構造との関わり」を捉えさせる。

「感じ取ったこと」を各自で記入し、曲想をつかむことができるようにする。

②自分のイメージや感情、経験と結び付けて記入する欄を設ける。

④鑑賞と表現の音楽活動で「音楽の仕組み」を生かすことができるように罫線で区切って記入できるようにする。

⑦自己の学びの成長を自覚できるように、学習の振り返りを記入する欄を設ける。

音楽を形づくっている要素と関わらせて「聴き取ったこと」を各自で記入し、音楽の構造をつかむことができるようにする。

⑥各自で罫線を引き、「知識」が新たな音楽活動で更新される過程を児童や教師が見取ることができるようにする。

学んだことをまとめることができるようにする。

図12 つながり発見シート

ここをクリックすれば、「つながり発見シートの手引き」が開きます [リンク](#)

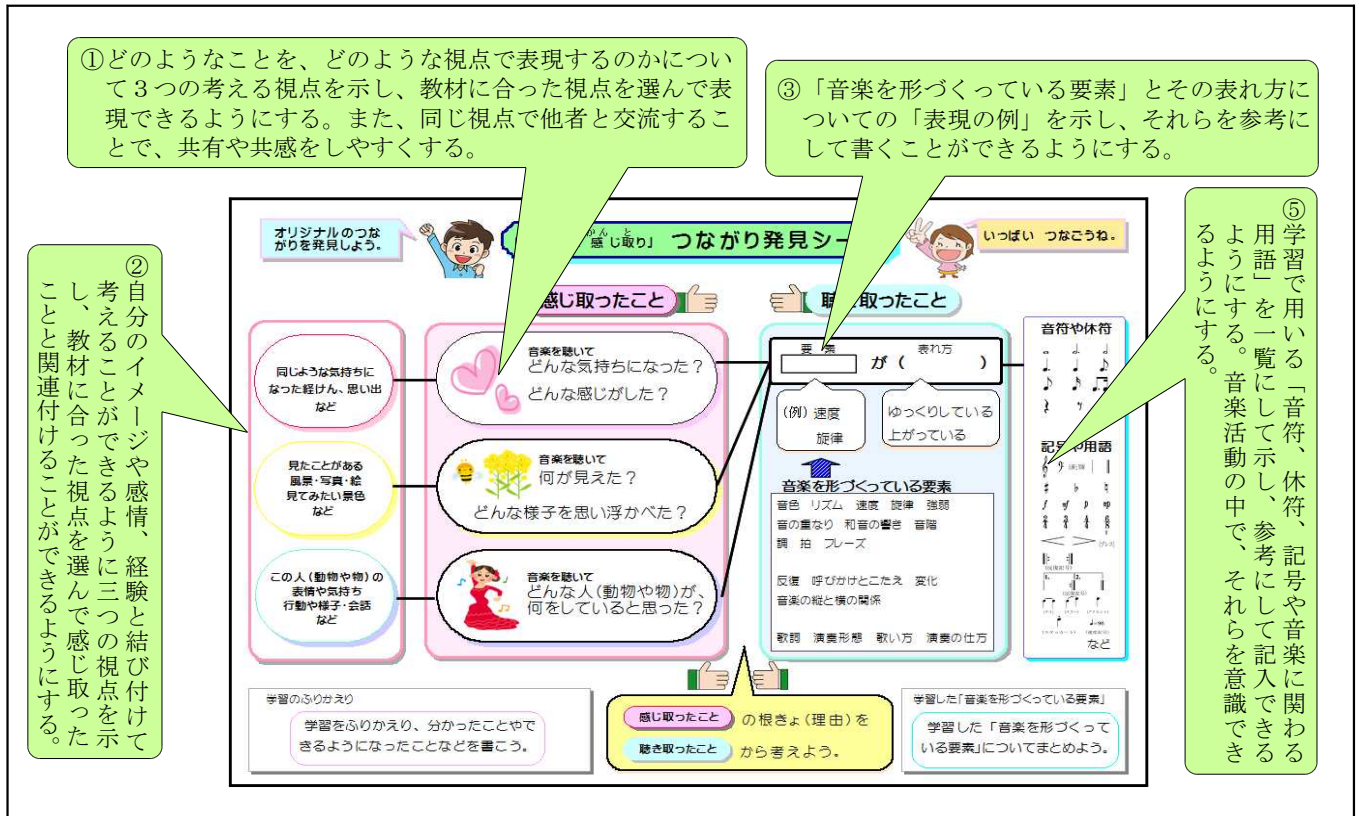


図13 つながり発見シートの手引き

ここをクリックすれば、「使いたい言葉の例」が開きます [リンク](#)

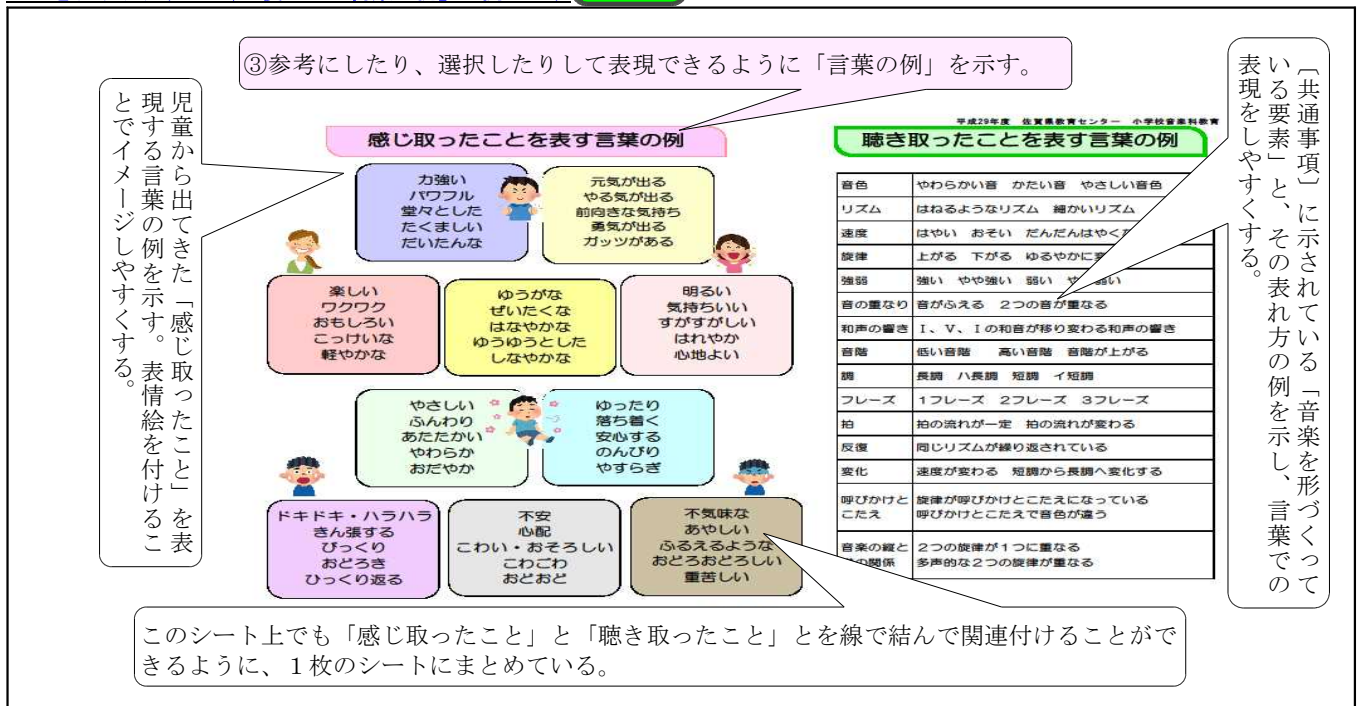


図14 使いたい言葉の例

(5) 授業実践

題材 「音やフレーズをつなげて、重ねて楽しもう！」

教材 「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」(モーツアルト作曲) (鑑賞)

「音やフレーズをつなげて、重ねて」 (音楽づくり)

題材の目標

掛け合いや音の重なりなどが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを理解して聴いたり、それらの音楽の仕組みを生かして、まとまりのある音楽をつくったりすることができる。

本題材で位置付ける【共通事項】 (ア) 音楽を特徴付けている要素 (イ) 音楽の仕組み

(ア) 音色、リズム、音の重なり (イ) 呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係

本題材で身に付けたい知識

呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みや、それらが音楽を特徴付けている要素と関わり合って生み出すよさや面白さと音楽の構造との関わりについて理解すること。

ア 1 時目

○目標

掛け合いや音の重なりなどが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係などの音楽の構造を理解して聴く学習に進んで取り組む。

○授業の展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)、手立て [①～⑦] に対する支援 (●)
導入	0 音楽遊びをする。	○ 2人組でリズムの模倣をしながら、楽しく音楽の仕組みに着目できるようにした。
	1 学習内容を知る。	○ 曲名から自由に曲想を想像させ、その根拠を問うことで、音楽を形づくっている要素を意識できるようにした。
	めあて：「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」の『音楽の仕組み』のひみつを探ろう！	
展開	2 「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりをつかむ。	● 「どのような人物が、何をしていると思ったか」の視点を示し「感じ取ったこと」を表現しやすくした [①]。 ● 「その人物の表情や気持ち、行動や様子、会話」などの視点を示し、自分のイメージと結び付けて考えることができるようにした [②]。 ● 感じ取ったことからその理由を考えさせ、「音楽を形づくっている要素」の一覧を参考にしながら、それらと関わらせて考えることができるようにした [⑤]。 ● 言葉による表現が困難な児童に対しては、「表現の例」や「使いたい言葉の例」を参考にさせた [③]。
	(1) 「感じ取ったこと」を自分のイメージや経験と関連付けながら書く。  男の人と女の人が会話をしている…表情は楽しそう、笑顔。	
開	(2) 「聴き取ったこと」を「音楽を形づくっている要素」と関わらせて書く。 男女が交互に歌っているから、会話みたいなんだね。 呼びかけとこたえになっているね。	
	(3) 「曲想と音楽の構造との関わり」について考えたことをグループで共有	



展 開	したり、共感したりする。 なるほど。二人は… 男女の声が最後に重なるから仲がよさそう。 (3) 全体で考えたことを共有したり、共感したりする。 ここから盛り上がります。歌ってみます。 整理したら… 3 「パパゲーノとパパゲーナ」の紹介文を書く。	○楽譜を提示し、歌ったり聴き比べをしたりしながら、互いの考えに共感したり新たな気付きを発見したりできるようにした。 ○交流の時間は小音量で音楽を流し、必要に応じて音楽を聴きながら互いの考えを確認できるようにした。 ○グループ交流の中で学級全体で共有したいと感じた内容を発表させた。 ○歌ったり、聴き比べをしたりすることで、他者の考えを確認しながら共有したり、共感したりできるようにした。 ○発表内容を板書し、音楽の仕組みと音楽を特徴付けている要素との関わりについても捉えることができるようにした。 ○低学年の友達を対象に書かせることで、分かりやすく、自分の言葉で表現できるようにした。
	4 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。	○紹介文を紹介させ、本時の学習で学んだことを発表させた。 ○次時は、音楽づくりに取り組むことを伝え、意欲を高めさせた。

イ 2 時 目

○目標

呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係などを生かして音楽をつくる学習に進んで取り組み、掛け合いや音の重なりなどが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音やフレーズのつなげ方や重ね方を工夫する。

○授業の展開

過程	学習活動	教師の指導（○）、手立て〔①～⑦〕に対する支援（●）
導 入	0 音楽遊びをする。 1 学習内容を知る。	○2人組でリコーダーを使った音楽遊び（まねっこあそび）をさせ、楽しみながら音楽の仕組みに着目できるようにした。 ●前時の学習をつながり発見シートを基に振り返らせ、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したことを、本時の音楽づくりに生かすことができるようにした〔④〕。
	めあて：『音楽の仕組み』のひみつを使って、2人組で音楽をつくろう！（パート1）	
展 開	2 2人組で、日常生活で起こり得る場面を想定し、音楽の仕組みを生かした音楽づくりに取り組む。 朝の会話を音楽にしたいね。まず、私のパートから始めて… 楽器はどうする？	○日常で起こり得る場面についてのあらすじを考えさせ、つくる音楽に思いを持たせるようにした。 ○「どのような人物が、何をしていると思ったか」「その人物の表情や気持ち、行動や様子、会話」などの視点を示し、つくる音楽に対するイメージを持たせるようにした。 ○2人組で考えたあらすじを基に音やフレーズのつなげ方を工夫しながら音楽をつくらせた。 ○使用する音を「ミソラド」の4音に限定し、音楽づくりがスムーズに進むようにした。
ま と め	・お父さんと私の会話だから、リコーダーと鍵盤ハーモニカを使おう。 ・盛り上がるころに向かって、だんだん交代を早くしよう。 ・最後は2人で一緒に演奏して心をつにしよう。最後はハモって仲良くなった感じを倍増させよう。	

展 開	3 中間発表会で互いに作品を紹介する。	○音楽づくりがスムーズに進まない児童に対しては、前時の学習内容を振り返らせたり、リズムカードを提示して参考にさせたりした。 ○5グループに分かれて作品を紹介し合わせ、表現のよさを自分たちの音楽にも取り入れることができるようにするとともに、互いの工夫から、曲想と音楽の構造との関わりについての理解を深めさせた。 ●新たな気づきをつながり発見シートに記入させた〔⑥〕。
	4 学習を振り返り、次時の学習を知る。	○本時の学習を振り返り、児童の頑張りを称賛した。 ○次時は、中間発表会での気づきを基に音楽を工夫することを伝え、学習への意欲を高めさせた。

ウ 3時目

○目標

呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係などが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、それらの音楽の仕組みを生かして、まとまりのある音楽をつくる。

○授業の展開

過程	学習活動	教師の指導（○）、手立て〔①～⑦〕に対する支援（●）
導 入	0 音楽遊びをする。	○2人組でリコーダーを使った音楽遊び（まねっこあそび）をしながら、楽しく音楽の仕組みに着目できるようにした。
	1 学習内容を知る。	○前時の学習を称賛し、本時の学習に対する意欲を高めた。 めあて：『音楽の仕組み』のひみつを使って、2人組で音楽を完成させよう！（パート2）
展 開	2 前時につくった音楽を工夫する。 (1) 中間発表会での気づきを振り返る。 (2) 音楽を工夫する。 「ソ」と「ミ」で吹くとどうかな。「ソ」と「ド」の方が明るい感じだね。  最後の小節にこだわってつくろう。音を重ねて演奏しよう。何の音にする？	○前時につくった音楽を想起させ、本時の学習につなげることができるようにした。 ○中間発表会での気づきを振り返らせ、本時の活動に見通しを持つことができるようにした。 ○本時の学習に見通しを持つことができない児童に対しては、中間発表会で発見した他者のよさを取り入れて、様々に試行錯誤をしてみるよう声を掛けた。 ○演奏したり聴き比べたりしながら工夫している児童を称賛して実際に音や音楽を通して工夫する意欲を高めた。 ●活動が滞った児童に対しては、「表現の例」を示したり対照となるような音楽の演奏を聴かせたりしながら、呼びかけとこたえ、音楽の縦と横の関係に着目できるようにした〔③〕。
	3 発表会をする。	○中間発表会と異なる5グループで発表会を行わせ、多くの工夫を知ることができるようにした。 ○互いの音楽のよさについて感想交流をさせ、認め合うことができるようにした。 ●互いの工夫から、曲想と音楽の構造との関わりについての新たな気づきをつながり発見シートに記入させた〔⑥〕。
ま と め	4 題材のまとめをし、学習の振り返りをする。	●題材全体を通し、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したことをつながり発見シートにまとめさせ、自分の成長を自覚できるようにした〔⑦〕。

(6) 授業実践における手立ての有効性についての考察

資料1は、本題材の1時目から3時目の学習において、A児が記入した「つながり発見シート」の内容です。

A児は、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを自分のイメージや感情、経験と結び付けながら捉え、その内容を記入しています。このように、聴き取ったことと感じ取ったこととを自分のイメージや感情、経験等と結び付けて記入できた児童の割合は100%でした。考える視点を示したこと、「表現の例」「使いたい言葉の例」を示したことなどが手立てとして有効だったと考えます。また、考える視点を示すことで、児童は交流がしやすくなった様子で「つながり発見シート」を基に友達の考えに共感したり、違いを認め合ったりしながら考えを深めていました。しかし、「つながり発見シート」に記入されている内容には個人差が大きく、歌ったり、楽譜を見たりさせながら個別で支援する必要がありました。可視化することで表れる個人差に、きめ細やかに対応する必要があると考えます。

「知識」が更新される過程は、鑑賞と音楽づくりの学習過程を比較することで見取ることができます。A児は、鑑賞で理解したことを基に音楽づくりの活動に取り組み、「呼びかけとこたえは、同じリズムを反復すると息がぴったりな感じがする。まとまりが感じられる」など、同じリズムの反復が呼びかけとこたえの中で生み出す働きについて、新たな発見をすることができています。このように、音楽づくりの活動で新たな気づきができた児童の割合は100%で、その多くが、A児のように複数の音楽を形づくっている要素の関わり合いに着目したものでした。このことから、新たな音楽活動で知識を活用することの効果に分かります。

また、A児は、3時目に行った振り返りで、「呼びかけとこたえの音楽を二人で歌うと楽しい気持ちになった。もっと呼びかけとこたえの音楽をつくりたい」という内容を記入しています。このことから、A児は音楽の仕組みである呼びかけとこたえを音楽活動の中で活用し、それらを活用する中で価値を見いだすことができたと考えられます。また、「呼びかけとこたえの音楽は身の回りにたくさんある」と、自分のこれまでの音楽経験を振り返っており、社会生活で知識を生かす姿につながっていると考えられます。

「表情や気持ち、行動の様子、会話」などの考える視点で自分のイメージや経験と結び付けて記入している。

罫線を引いて「音楽づくり」で新たに気付いたことを記入し、「知識」の更新をしている。

本題材で学んだことを振り返り、自分の成長を記入している。

「どんな人が、何をしていると思ったか」の視点で感じたことを記入している。その中で、途中から「盛り上がる」と感じている。

オリジナルの曲を発見し、曲名「ハバハバ」→音楽づくり

「自分」のイメージや経験等

二人は笑顔で喜んでいる

お金持ちで上品な感じ、パーティ会場、でいらい言葉の会話

息がぴったり感じ

仲良しな感じ

二人の男女 (男の人はたくましく、女の人はやさしい)

ゆうやかな感じ

二人が再会を喜んでいる。

と中から盛り上がっているように来た。(二人の会話が増えているように来た)

最後は二人が仲良くなった。

だんだん曲が盛り上がるようになる。

まとまりがある感じ。

「音色」が2つ 男の声、女の声

呼びかけとこたえ

リズムが細かくなると音が高くなる

二人の声が重なる

二人で歌うところを増やす。

リズムを反復させる。

くろくし

音楽のたてと横の関係

ソプラノ アルト バス

四分音符から八分音符が増えている

音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いについて、自分なりに聴き取ったことを記入している。

音符や記号等とも結び付けて聴き取ったことを記入している。

本題材で学んだ音楽を形づくっている要素を記入している。

学習した「音楽を形づくっている要素」

呼びかけとこたえ

音色

音楽のたてと横の関係

リズム

学習の振り返り

呼びかけとこたえの音楽は、二人で歌うと楽しい気持ちになったと思った。これまで気づけなかった、呼びかけとこたえの曲がたくさんあると思った。あと、呼びかけとこたえで音楽をつくりたいと思った。

資料1 児童のつながり発見シートの記入 (A児)

(7) 児童の実態調査を基にした手立ての有効性についての考察

実態調査から課題と捉えた内容について、事後の調査では、次のような結果が得られました。n=24

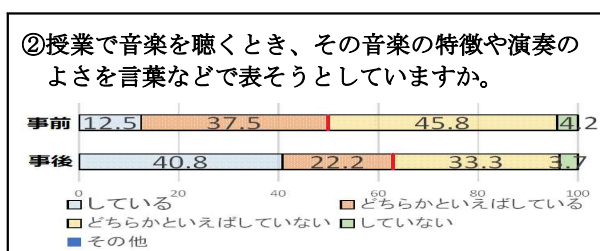


図15 言葉で表現すること

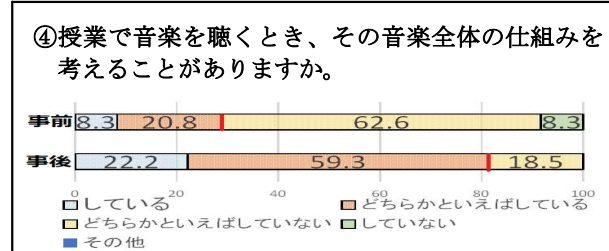


図16 音楽の仕組みを聴き取ること

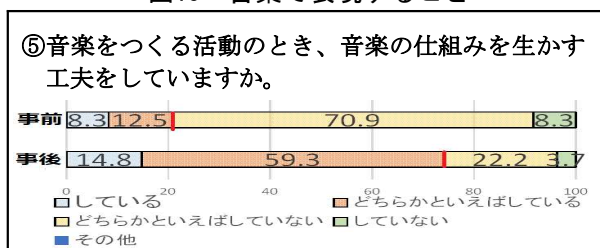


図17 音楽の仕組みを生かすこと

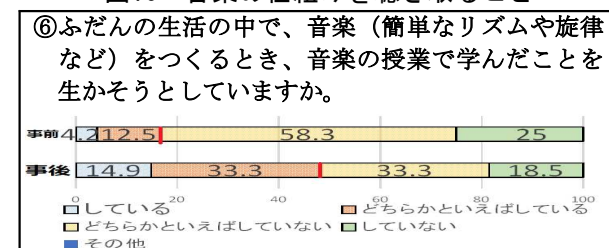


図18 学んだことを生かすこと

図15から図18までは、検証授業の事前と事後で実施したアンケート結果を比較したものです。このように、事前と事後とを比較すると、どの項目においてもアンケートの質問項目に肯定的な回答をした児童の割合が増加しています。特に音楽の仕組みを鑑賞や音楽づくりの音楽活動に生かそうとする意識については、肯定的な回答が大きく増加しました(図16、図17)。このことにより、児童は、音楽の仕組みを表現や鑑賞で活用しながら、それらを音楽活動で生かす喜びを感じることができたと考えます。

しかし、どの項目においても否定的な回答をした児童がおり、特に「学んだことを生活で生かそうとする意欲」については、51.8%の児童が否定的な回答をしています(図18)。音楽の授業で学んだことを生活の中で生かす経験を通し、それらを生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるような指導の工夫について、今後、検討する必要があると考えます。

《引用文献》

- (1) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 補足資料第1部 1
- (2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 第5章 2
- (3) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 別添 8－1
- (4) 佐賀県教育センター 『平成28年度「個別実践研究」小学校音楽科教育』 平成29年 3月 2(1)
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h28/08_syo_ongaku/h28_koken_syo_ongaku_top.htm
- (5) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 別添 8－3